



2025年2月14日

各 位

会 社 名 K O Z Oホールディングス株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 森下 将典
(コード番号：9973 STANDARD)
問 合 せ 先 取締役経営企画室室長 毛利 謙久
(TEL. 03-4586-1122)

営業外費用（為替差損）の計上及び特別損失の計上並びに
通期連結業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

当社は、2024年12月期第4四半期会計期間において、営業外費用（為替差損）及び特別損失を計上するとともに、2024年11月8日付「2024年12月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」にて公表しました、2024年12月期（2024年1月1日～2024年12月31日）の通期連結業績予想と実績に差異が生じたのでお知らせいたします。

記

1. 営業外費用（為替差損）の計上について

1) 営業外費用（為替差損）の内容

2024年12月期第3四半期連結累計期間（2024年1月1日～9月30日）において、為替差益を25百万円を計上しておりましたが、昨今の為替相場の変動による円高の影響に伴いまして、2024年12月期第4四半期連結会計期間（2024年10月1日～2024年12月31日）において、当該為替差益を取り崩し、為替差損9百万円を計上致しました。

2. 特別損失の計上について（減損損失・店舗閉鎖損失引当金・その他特別損失）

1) 減損損失について

2024年12月期第4四半期連結会計期間において、当社グループの事業セグメントである「小売事業」「飲食事業」「流通事業」にて、運営する事業及び店舗において、収益性の減退が生じたことにより、回収可能価額の資産価値をゼロとした点により、減損損失1億70百万円を計上致しました。各事業セグメントの内訳は、下記に記載するとおりであります。

2) 店舗閉鎖損失引当金について

2024年12月期第4四半期連結会計期間において、当社グループの事業セグメントである「小売事業」「飲食事業」「流通事業」にて、2025年12月期の黒字転換、及び、2025年12月期を基点とした更なる事業成長を図るため、不採算店舗の閉鎖を決定しております。これにより、当該不採算店舗の閉鎖、並びに、長期に渡り休業を行っていた店舗の固定費に関して、店舗閉鎖損失引当金55百万円を計上致しました。

3) その他特別損失

2024年12月期第4四半期連結会計期間において、当社グループの事業セグメントである「流通事業」及び持株会社であるK O Z Oホールディングス株式会社（「本部」と称します。）において、回収可能性の減退した債権について、その他特別損失28百万円を計上致しました。

(各事業セグメントにおける減損損失及び店舗閉鎖損失引当金の内訳)

(単位：百万円)

| | 小売事業 | 飲食事業 | 流通事業 | 本部 |
|-----------|------|------|------|----|
| 減損損失 | 5 | 73 | 92 | — |
| 店舗閉鎖損失引当金 | 24 | 13 | 18 | — |
| その他特別損失 | — | — | 8 | 20 |

3. 2024年12月期 連結業績予想と実績の差異 (2024年1月1日～2024年12月31日)

(単位：百万円)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に 帰属する 当期純利益 | 1株当たり 当期純利益 (円銭) |
|------------------------------|--------|------|------|-------------------------|------------------------|
| 前回発表予想 (A) | 17,500 | △340 | △330 | △410 | △1.80 |
| 実績値 (B) | 18,109 | △427 | △459 | △782 | △3.44 |
| 増減額 (B-A) | 609 | △87 | △129 | △372 | — |
| 増減率 (%) | 3.5% | — | — | — | — |
| (ご参考) 前期実績 (2023年12月期 通期) | 13,054 | △237 | △213 | △338 | △1.66 |

4. 差異の理由

1) セグメント利益 (営業利益) の差異について

2024年11月8日付「2024年12月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」にて公表しました、2024年12月期 (2024年1月1日～2024年12月31日) の通期連結業績予想と実績値との差異額に関しては、下記に記載のとおりであります。

(事業セグメント別の業績予想に対する営業利益差異の主要因)

| 事業セグメント | 業績予想 | 実績値 | 業績予想との 差異額 | 対象企業 | 業績予想との 差異に関する内容 |
|---------|---------|---------|---------------|-------------------|------------------------------|
| ① 小売事業 | △90百万円 | △112百万円 | △22百万円 | 小僧寿し | ・海産物、米等の仕入コスト増加 ・水道光熱費の増加 |
| | | | | だいまる | ・仕入コスト増加 |
| ② 飲食事業 | △2百万円 | △40百万円 | △38百万円 | アスラポート | ・海外事業会社ののれん評価 |
| | | | | スパイシークリエイト | ・年末商戦に予定した売上の減退 |
| | | | | TBJ | ・円安の影響による仕入コスト増加 |
| ③ 流通事業 | △117百万円 | △134百万円 | △17百万円 | 東洋商事 | ・債権の一部引当 |
| | | | | モリヨシ | ・年末商戦に予定した売上の減少 |
| | | | | デリズ | ・仕入コストの増加 |
| ④ 海外事業 | △33百万円 | △37百万円 | △4百万円 | SUSHI BOY, INC. 等 | ・想定していた売上高の減退 |
| ⑤ 本部 | △98百万円 | △104百万円 | △6百万円 | KOZOホールディングス | ・株主優待制度に係る運用費用の増加 |
| (合計) | △340百万円 | △427百万円 | △87百万円 | — | — |

① 小売事業セグメント

小僧寿しにおきましては、業績予想値に対して売上高は想定通りに推移したものの、海産物及び米を中心とした仕入コストの増加、及び、店舗運営にかかる水道光熱費の上昇幅が想定を上回ったことから、△13 百万円の影響が生じました。

だいまるにおきましても、想定を上回る仕入コストの上昇により、△8 百万円の影響が生じております。

② 飲食事業セグメント

アスラポートにおきましては、国内事業において、売上高、営業利益共に堅調に推移を致しました。一方で、2024 年度に連結と致しました海外事業会社（Asrapport Dining USA, INC. 及び SUSHI BOY INC.）の取得株式に対してのれんの評価を行った関係で、業績予想値から△23 百万円の影響が生じております。

スパイシークリエイトに関しては、年末までに想定していた売上高を下回ったことから△5 百万円の影響が生じ、TBJに関しては、円安の影響に伴う仕入コストの上昇幅が想定を上回ったことから、△9 百万円の影響が生じております。

③ 流通事業セグメント

東洋商事におきましては、売上高及び営業利益共に堅調に推移をしておりますが、一部回収可能性の減退した売掛債権につきまして引当金を計上したことから、業績予想値に対して△5 百万円の影響が生じております。

モリヨシにおきましては、おせち商品に代表される年末商戦の販売数が想定を下回ったことから、△7 百万円の影響が生じております。

デリズにおきましては、仕入コストが想定を上回ったことから、△3 百万円の影響が生じました。

④ 海外事業

当社グループの海外事業は、飲食事業セグメントの中核会社であるアスラポートを主体として、欧州・欧米に合計 15 店舗の飲食店を展開しております。2024 年 5 月に連結子会社といたしました Asrapport Dining USA, INC. の子会社である SUHI BOY, INC. にて運営する 8 店舗において、15 百万円の連結業績への寄与を見込んでおりましたが、この影響が 8 百万円に留まったことから、業績予想値に対して差異が生じております。

⑤ 本部（KOZOホールディングス株式会社）

2024 年 7 月 1 日付にて、KOZOホールディングス株式会社へと商号変更を行い、持株会社体制への移行を記念して発行を致しました特別優待の実施におきまして、当初想定を超えるお申込みを賜りましたことから、当該費用が一部増加しております。このため、業績予想値に対して差異が生じました。

2) 経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益の差異について

経常利益の差異につきましては、上記に記載するセグメント利益（営業利益）の差異に起因し、業績予測値と比較し△87 百万円の差異が生じたことに加え、営業外費用として、上記に記載する為替差損 9 百万円を計上した点、持分法関連会社に対する金銭債権の回収可能性を鑑み一部債権の引当金として 5 百万円を計上した点、2024 年度内に実施したファイナンス関連の支払手数料を 8 百万円計上した点などが影響し、△1 億 29 百万円の差異が生じております。

親会社株主に帰属する当期純利益に関してましては、上記に記載する差異及び特別損失として新たに 2 億 52 百万円（減損損失 1 億 70 百万円、店舗閉鎖損失引当金 54 百万円、その他特別損失 28 百万円）を計上した点などにより、業績予想値と比較し△3 億 72 百万円の差異が生じました。

以上